

産婦人科の実際

Obstetrical and Gynecological Practice

特集

生殖医療のファーストライン・ セカンドライン

—診療ストラテジーと方針変更のタイミング—

企画●——杉本公平

8

Vol.67
No.8
August
2018



感情と胎児行動の検討

丸茂元三*¹ 庄子巳菜美*¹ 斎藤花梨*¹
阿部一也*² 大橋浩文*² 石田友彦*²

今回われわれは、胎児の行動が母親の感情によって変化するかについて検討した。出産直後の褥婦 649 名に、妊娠中に母親の感情によって生じる胎児反応について、アンケート調査を行った。妊娠中いろいろな感情に対して胎児が「よく動いた」または「動かなくなった」を胎児反応あり「わからない」を胎児反応なしとした。胎児反応ありの割合は、楽しいときが、ほかの感情(悲しいとき、怒ったとき、緊張したとき)より有意に高く、胎児反応ありのなかで「よく動いた」割合も、楽しいときは97%で、ほとんどよく動いたのに対して、悲しいときは51%、怒ったときは41%、緊張したときは26%と減少し動かなくなっていた。赤ちゃんは胎内にいるときから母親の感情を敏感に察知している可能性が示唆された。

はじめに

母親は、胎動を感じる頃になると、あらためてお腹に赤ちゃんが宿っていることを自覚認識し、胎内にいる胎児の動きを敏感に読み取るようになっていく。胎児もまた、外界の刺激に対して、身体の動きや心拍反応などで十分に応答していることがわかってきている¹⁾。

胎児にとっての外界の刺激は五感を通して感知していると考えられる。われわれは、触覚刺激²⁾、聴覚刺激³⁾、視覚刺激⁴⁾、嗅覚刺激⁴⁾⁵⁾、味覚刺激⁵⁾に対する胎児行動について報告してきた。

母親の感情は、外界の刺激と異なり、直接胎児の五感を刺激するものではないが、感情ホルモンを通して胎児は感じていると考えられる。よって胎児は母親の感情によっても胎動を変化させる可能性がある。今回われわれは母親の感情によって胎動に変化があるかどうかについて検討した。

1. 対象と方法

当院に出産のため入院した症例に、出産後から退院までの入院期間中にインフォームド・コンセントを得てアンケート調査を実施した。

有効回答が得られた症例は649例で、そのなかで初産婦は329例、経産婦320例であった。

回答年齢は、20歳以下が10例、21~25歳が79例、26~30歳が193例、31~35歳が241例、36~40歳が117例、41歳以上が9例で、最も多かった年齢が初産婦は26~30歳、経産婦は31~35歳であった(図1)。

出産週数は、35週が3例、36週が13例、37週が49例、38週が114例、39週が176例、40週が199例、41週が89例、42週が6例で、最も多かった週数は初産婦も経産婦も40週であった(図2)。

アンケートは、妊娠中に母親の感情に対する胎児反応として、胎児が「よく動いた」「動か

*1 G. Marumo, M. Shoji, K. Saito 丸茂レディースクリニック
*2 K. Abe, H. Ohashi, T. Isida 板橋中央総合病院産婦人科